1999年12月改訂（新様式第1版）

【貯法】
気密容器。

浣腸剤・溶解剤

日本薬局方

グリセリン

GLYCERIN

日本標準商品分類番号
872357

承認番号	(61AM) 第409号
薬価収載	1986年1月
販売開始	1952年2月

【禁忌：次の患者には使用しないこと】
1．腸管内出血腹腔内炎症のある患者、腸管に穿孔又はそのおそれのある患者［腸管外漏出による腹膜炎の誘発、ぜん動運動高進作用による症状の増悪、グリセリンの吸収による溶血、腎不全を起こすおそれがある］
2．全身衰弱の強い患者［強制排便により衰弱状態を悪化させ、ショックを起こすおそれがある］
3．下部消化管術直後の患者［ぜん動運動高進作用により腸管縫合部の離解を招くおそれがある］
4．吐気、嘔吐又は激しい腹痛等、急性腹症が疑われる患者［症状を悪化させるおそれがある］

【組成・性状】
1．組成
本品はグリセリン84～87%を含む（比重による）。

2．性状
本品は無色澄明の粘性の液で、においはなく、味は甘い。水又はエタノールと混和する。エーテルに極めて溶けにくい。吸湿性である。比重 d^{20}_{20}：1.221～1.230。

【効能又は効果】
浣腸液の調剤に用いる。また、溶剤、軟膏基剤、潤滑・粘滑剤として調剤に用いる。

【用法及び用量】
50%液として10～150mL（増減）。

【使用上の注意】
1．慎重投与
1）局所（腸管、肛門）に炎症・創傷のある患者［出血を促しグリセリンが吸収され溶血を、また、腎不全を起こすおそれがある］
2）腸管麻痺のある患者［ぜん動運動高進作用により腹痛等の症状を増悪させるおそれがある］
3）重症の硬結便のある患者［十分な効果が得られず、腹痛等の症状を増悪させるおそれがある］
4）重篤な心疾患のある患者［症状を増悪させるおそれがある］
5）乳児［患児側の反応を十分に把握できない場合、過量投与に陥りやすい］
6）高齢者、妊婦（高齢者への投与、妊婦への投与の項参照）

2．副作用
過敏症：発疹等が現れることがあるので、このような場合には中止すること（頻度不明）。
消化器：腹痛、腹鳴、腹部膨満感、直腸不快感、肛門部違和感・熱感、残便感等が現れることがある（頻度不明）。
循環器：血圧変動を起こすことがある（頻度不明）。

3．高齢者への投与
高齢者では過度の瀉下作用により体液量の減少等を来し、脱水等を起こすことがあるので、浣腸剤では少量から開始するなど、慎重に投与すること。

4．妊婦・授乳婦への投与
ア）妊婦：妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にだけ投与すること。
イ）流早産：子宮収縮を誘発して流早産を起こす危険性があるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。

5．適用上の注意
ア）浣腸用にだけ使用すること。
イ）注入に際し、直腸粘膜を損傷することがあるので、慎重に挿入すること。挿入時損傷を起こし出血がみられた場合、グリセリンが血管内に入り、溶血を起こすおそれがある。
ウ）患者の状態を観察しながら投与し、異常が認められた場合には直ちに中止すること。

【薬効薬理】
本品の濃厚溶液は水分を奪取することにより、局所を刺激するが、希薄溶液の刺激は緩和で、局所を軟化する。直腸粘膜を刺激して排便を促す目的で浣腸剤として、また局所を包摂保護し、外部刺激を緩和し、若しくは有害物の侵入を防止する目的で外用される。

【有効成分に関する理化学的知見】

1．一般名

グリセリン

2．化学名

glycerol

3．分子式

$C_3H_8O_3$

4．構造式

$HOCH_2\text{-}CH(OH)\text{-}CH_2OH$

【主要文献】

第13改正日本薬局方解説書，第１部医薬品各条C-1053，廣川書店。

【包　装】

500 mL、18 kg。

【文献請求先】

タツミ薬品工業株式会社　学術情報部

〒 537-0013　大阪市東成区大今里南５丁目14番６号

【製造業者の名称及び住所】

製造発売元　タツミ薬品工業株式会社

大阪市東成区大今里南５丁目14番６号